

今回の内容：①会議情報、②委員長等記者会見の様様

会議情報

最近の消費者安全調査委員会での議論についてお知らせします。

第86回消費者安全調査委員会（令和元年9月30日）

- 電動シャッター動作時の事故のフォローアップ
平成30年9月に報告書を公表した「電動シャッター動作時の事故」のフォローアップとして、経済産業省及び消費者庁に出席いただき、調査委員会から具申した意見に対する取組状況について、公開でヒアリングを行いました。
経済産業省からは、電動シャッターへの安全装置の装備について、JISの改正に向けた検討など、製造事業者や業界団体の取組について説明がありました。また、保守点検に関する取組や課題についても説明がありました。
消費者庁からは、ニュースリリースや自治体への通知の発出等を通じて、電動シャッターの所有者や利用者である消費者への周知をしている状況について説明がありました。
その上で、事故防止のための更なる取組についての意見交換を行いました。
- 自動ドアによる事故
新たな調査案件として、「自動ドアによる事故」をテーマにして、調査・分析を行うことを決めました。
自動ドアは1950年代後半から広く普及し、現在、日本国内では200万台以上の自動ドアが稼働していると推定されています。自動ドアによる事故は、継続的に幅広い年代で発生していることから、自動ドアの安全性について、これまでの事故の原因を分析し、再発防止策を示すことが必要と考えました。
- 幼児同乗中の電動アシスト自転車の事故
事務局から説明があり、これを基に審議を行いました。
- 一般の方からいただいた「申出」事案
事務局から、類似事例、制度等の関連情報や専門委員の見解などの情報収集の結果が報告され、その内容に基づき調査委員会で検討した結果、そのうち1件について調査を行うこととしました。残りの案件（14件）については、引き続き、臨時委員、専門委員等の知見も活用しながら、事務局で丁寧に情報収集を行った上で、調査委員会において判断していきます。
- 子供による医薬品の誤飲事故のフォローアップ
まず、CR（チャイルドレジスタンス）包装容器の導入に関する厚生労働省の取組状況について、事務局から報告を受けました。
また、フォローアップの一環として、公益財団法人日本中毒情報センターに寄せられた子供による医薬品誤飲事故に関して情報分析を行いましたので、その結果の概要を公表することを決めました。調査委員会が平成27年11月に公表した報告書と同様に、子供の発達に応じて起こりやすい事故の特徴があることなどが確認できました。
調査委員会は、子供による医薬品誤飲事故を防ぐためには、CR包装容器の導入と消費者への周知を通じて家庭における医薬品の適切な管理を促すことがいずれも重要であると考えています。引き続き、意見に対する取組状況を整理して、委員会での取組を検討したいと考えています。

消費者安全調査委員会の動き 第79号

(令和元年9月30日)

今回の内容：①会議情報、②委員長等記者会見の様様

会議情報

- 住宅用太陽光発電システムから発生した火災事故等のフォローアップ
調査委員会が平成31年1月に報告書を公表した「住宅用太陽光発電システムから発生した火災事故等」のフォローアップとして、調査委員会から具申した意見に対する経済産業省の取り組み状況について確認を行いました。
通常、フォローアップは報告書公表から1年後を目途に行っておりますが、本件は、経済産業省への意見の中で、応急点検を求めておりましたので、前倒しする形で、特に、応急点検の実施状況について確認を行いました。現時点では、最大約2万5400邸の応急点検対象邸数のうち、約2000邸でモジュールメーカーにより応急点検が実施されているにとどまる状況でした。
また、新たに設置される鋼板なし型の住宅用太陽光発電システムに対し設置形態の変更を求めた意見については、個社により対応方法は異なるものの、いずれも設置形態の変更での対応がなされたとの報告を受けています。

部会の動き

- 製品等事故調査部会（9月上旬に開催）
 - ・ 幼児同乗中の電動アシスト自転車の事故
事務局から説明があり、これを基に審議を行いました。
- サービス等事故調査部会（9月中旬に開催）
 - ・ 新規案件候補
事務局から説明があり、これを基に審議を行いました。

委員長等記者会見の様様

委員会後に委員長等の記者会見を行いました。

詳細は以下をご覧ください。

<https://www.caa.go.jp/policies/council/csic/statement/>